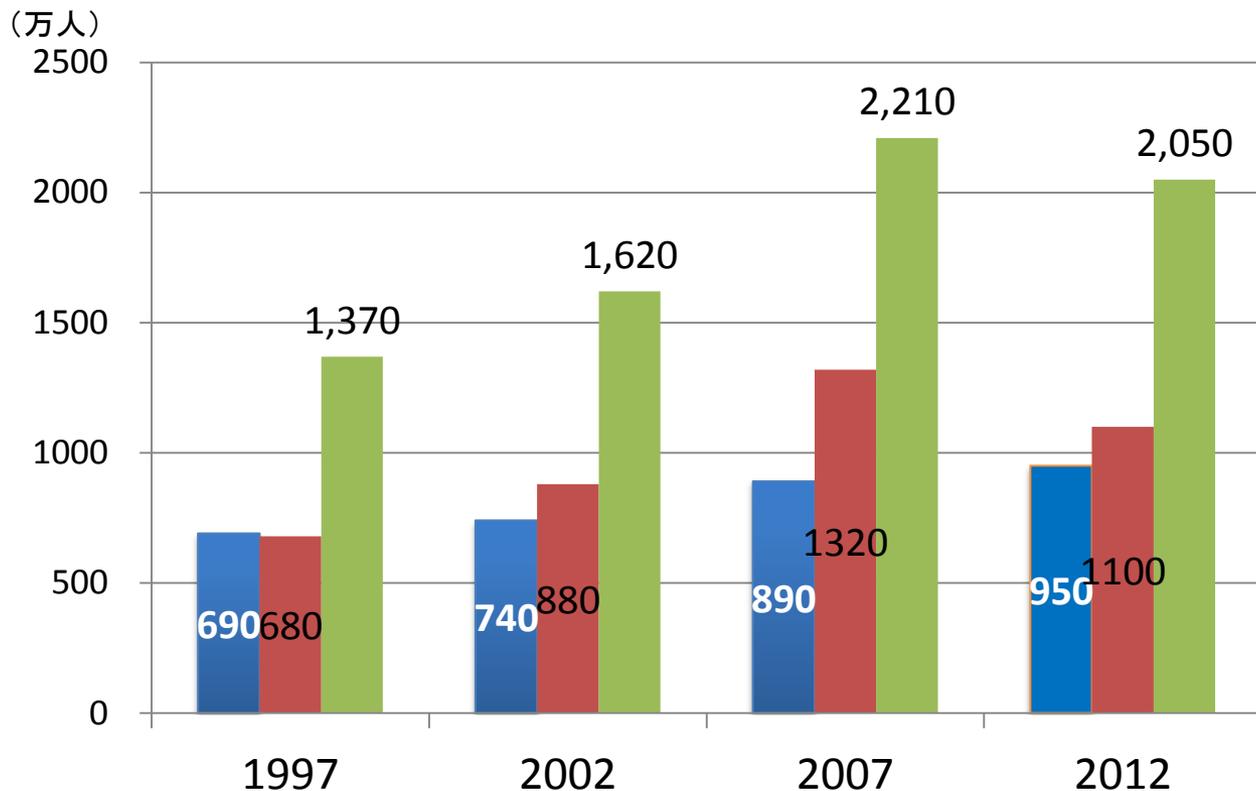


糖尿病・人工透析の現状

糖尿病有病者数の推移

健康日本21(第二次)においては、危険因子の回避により、平成19年の糖尿病有病者推計値890万人を、平成34年度に1,000万人に抑えろとの目標を設定



■ **A: 糖尿病が強く疑われる人**

HbA1c \geq 6.5%(NGSP値)
(平成19年まではHbA1c \geq 6.1%(JDS値))
又は質問票で「現在糖尿病の治療を受けている」と答えた者。

■ **B: 糖尿病の可能性が否定できない人**

$6.0\% \leq$ HbA1c \leq 6.5 (NGSP値)
平成19年までは $5.6\% \leq$ HbA1c \leq 6.1% (JDS値)
でA以外の者。

■ **A + B**

「糖尿病が強く疑われる者」と「糖尿病の可能性を否定できない者」を合わせると約2,050万人であり、平成9年以降、初めて減少に転じた。

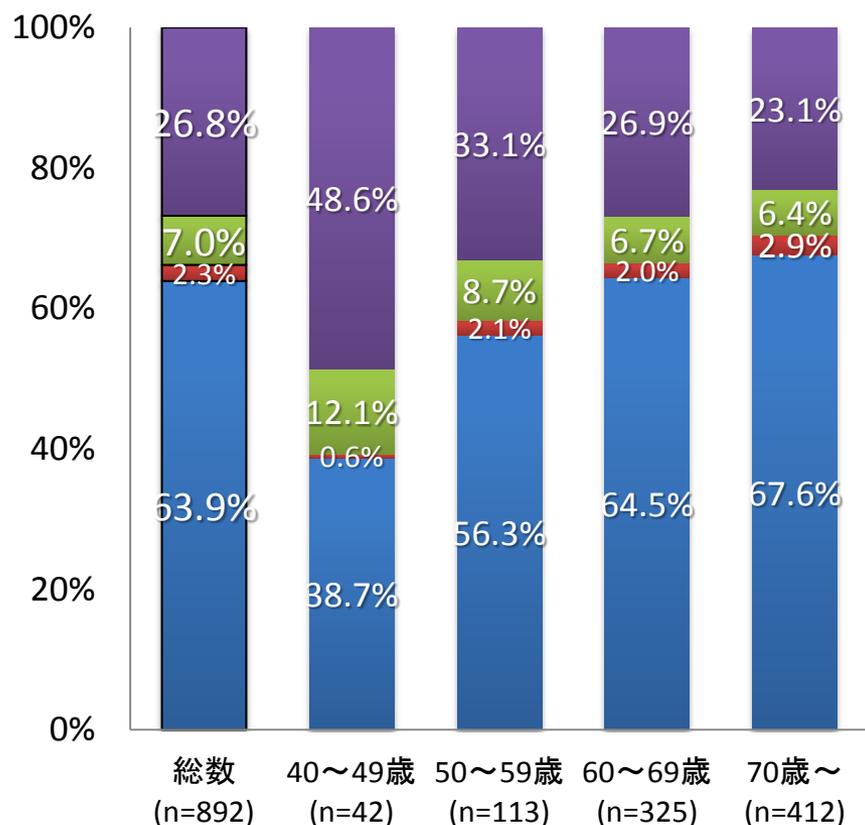
医療機関や健診で糖尿病といわれたことがある者における治療の状況

資料：厚生労働省「平成24年国民健康・栄養調査」

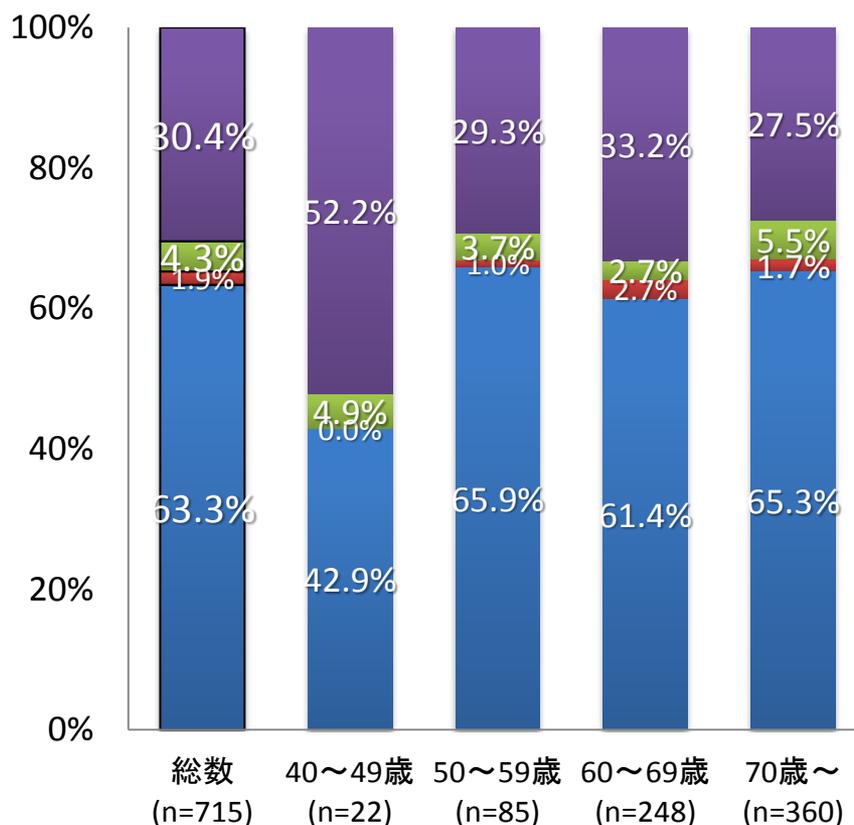
(40歳以上のデータ)

- これまでに治療を受けたことがない
- 過去に受けたことがあるが、現在は受けていない
- 過去に中断したことがあるが、現在は受けている
- 過去から現在にかけて継続的に受けている

【男性】



【女性】



糖尿病の目標設定の考え方

健康寿命の延伸・健康格差の縮小

生活の質の向上

社会環境の質の向上

糖尿病及びその合併症を抑制

三次予防

合併症による臓器障害の
予防・生命予後の改善

○糖尿病腎症による年間新規透析導入
患者数の減少

二次予防

重症化予防

○治療継続者の割合の増加
○血糖コントロール指標における
コントロール不良者の割合の減少

一次予防

発症予防

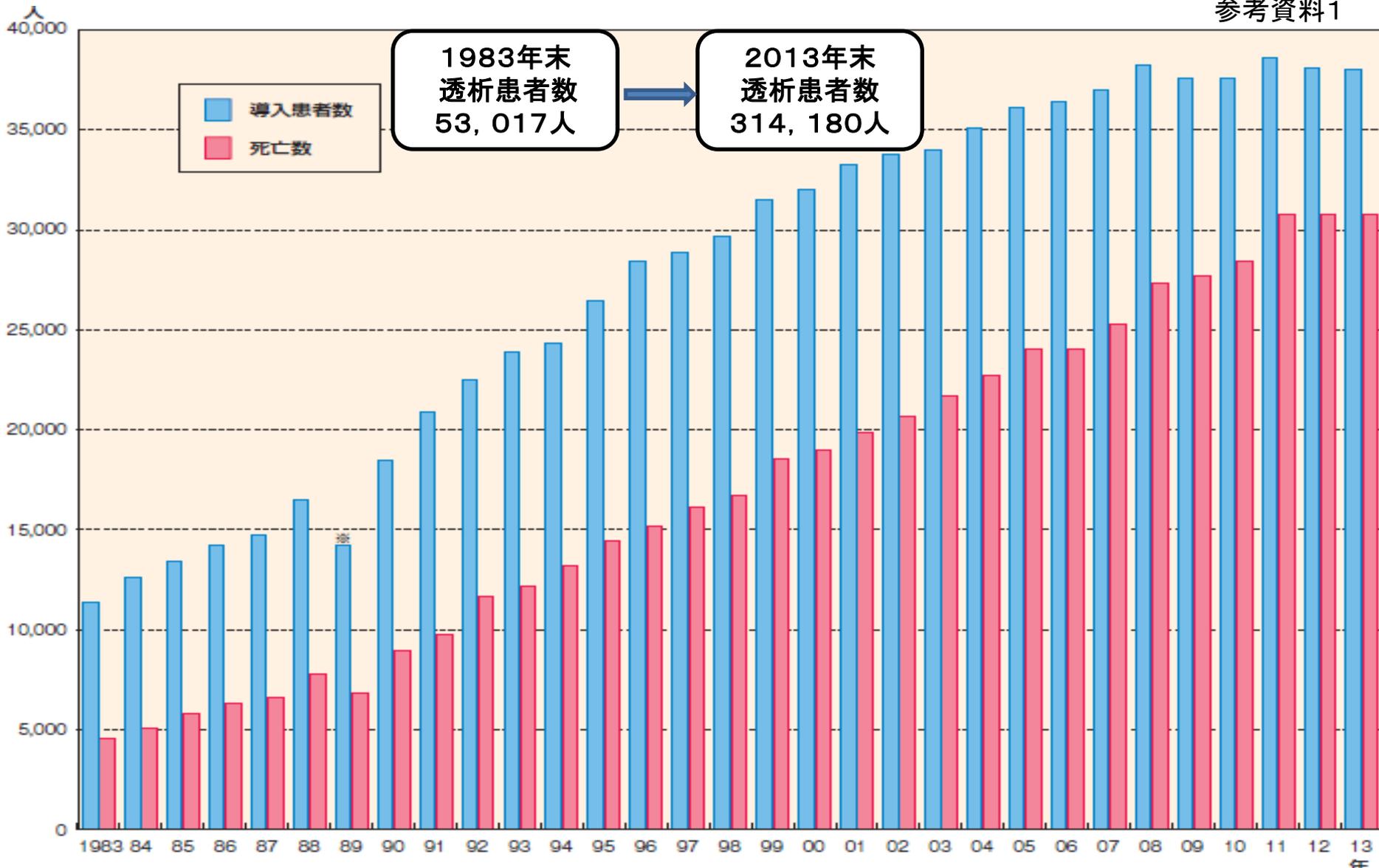
○糖尿病有病者の増加抑制

健康日本21(第二次) 糖尿病に関する目標

項目	現状	目標
①合併症(糖尿病腎症による年間新規透析導入患者数)の減少	16,035人 (平成25年)	15,000人 (平成34年度)
②糖尿病治療継続者の割合の増加	62.0% (平成24年)	75% (平成34年度)
③血糖コントロール不良者の割合の減少(HbA1cがNGSP値8.4%以上の者の割合の減少)	1.2% (平成22年度)	1.0% (平成34年度)
④糖尿病有病者の増加の抑制	950万人 (平成24年)	1,000万人 (平成34年度)
⑤メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少	1,394万人 (平成24年度)	平成20年度と比べて25%減少 (平成27年度)
⑥特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上	特定健康診査の実施率 46.2% 特定保健指導の実施率 16.4% (平成24年度)	平成25年度から開始する第二期医療費適正化計画に合わせて設定(平成29年度)

透析患者数、新規透析導入患者数、死亡患者数について

参考資料1

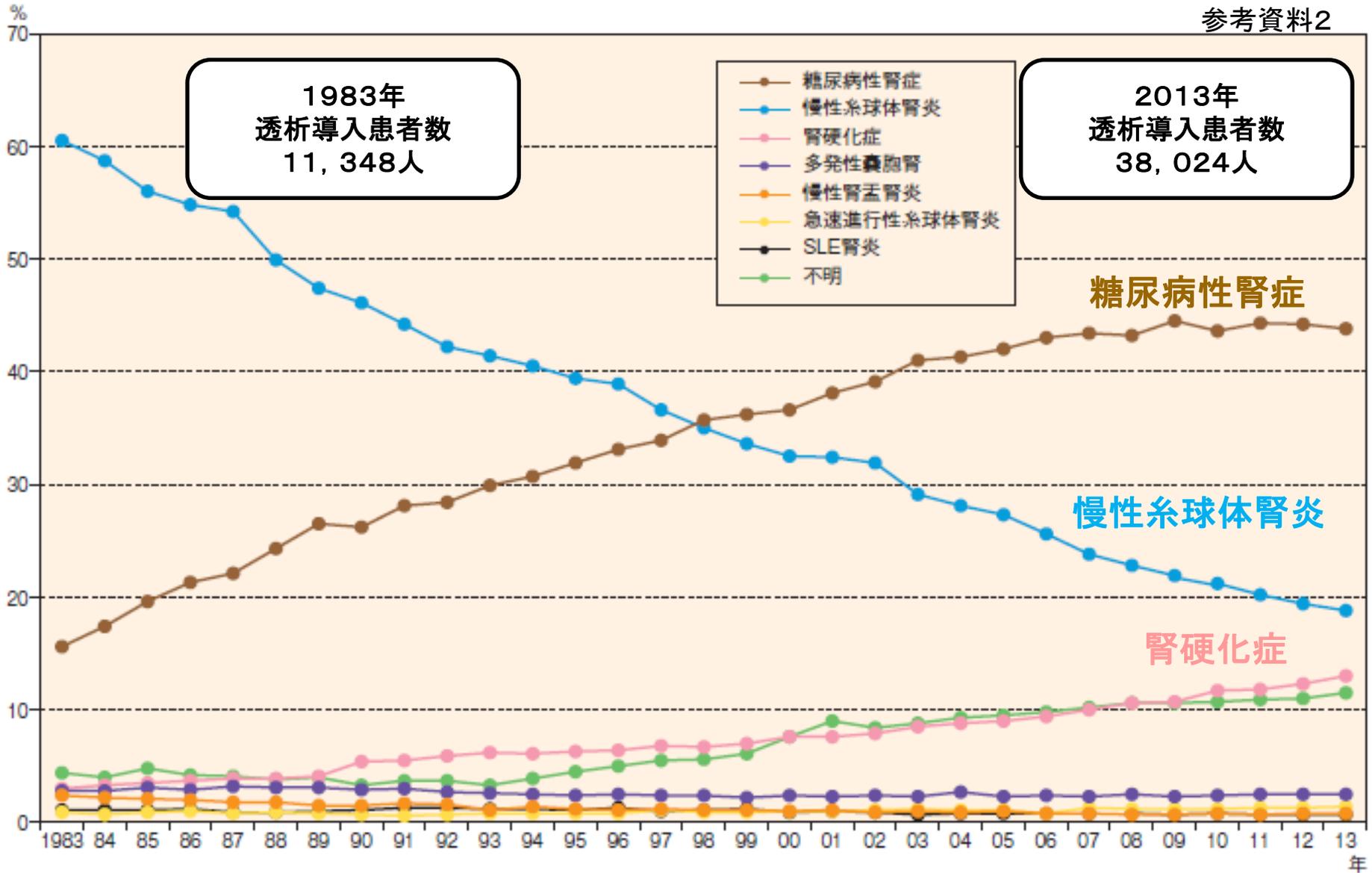


出典：我が国の慢性透析療法の現状（日本透析医学会）

※：1989年の減少はアンケート回収率が86%と例外的に低かった事による見かけ上の影響（2013年は回収率99%）

透析導入患者の主要原疾患の推移(年別)

参考資料2



出典: 我が国の慢性透析療法の現状(日本透析医学会)